

3 配偶者からの被害経験

(1) これまでの被害経験の有無

これまでに結婚したことのある人(2,328人)に、3つの行為をあげて、配偶者から受けたことがあるかを聞いた(図3-1-1)。

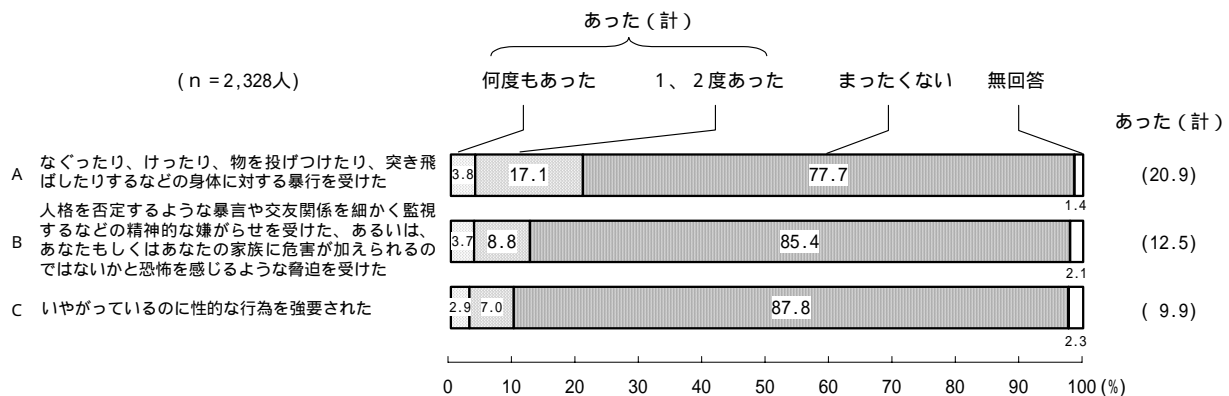
まず、これまでに“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが「何度もあった」人は3.8%で、「1、2度あった」(17.1%)という人を合わせると、これまでに身体的暴行を受けたことがある人は2割である。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「何度もあった」という人は3.7%で、「1、2度あった」(8.8%)を合わせると、1割強の人が、心理的攻撃を受けている。

最後に、これまでに“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが「何度もあった」人は2.9%で、「1、2度あった」人(7.0%)を合わせると、ほぼ1割が性的強要の被害経験を持つ。

【これまでに結婚したことのある方に、お聞きします。】
 問5 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。以下、同様。AからCのそれぞれについて、あてはまる番号に をつけてください。
 (はそれぞれ1つずつ)

図3-1-1 配偶者からの被害経験

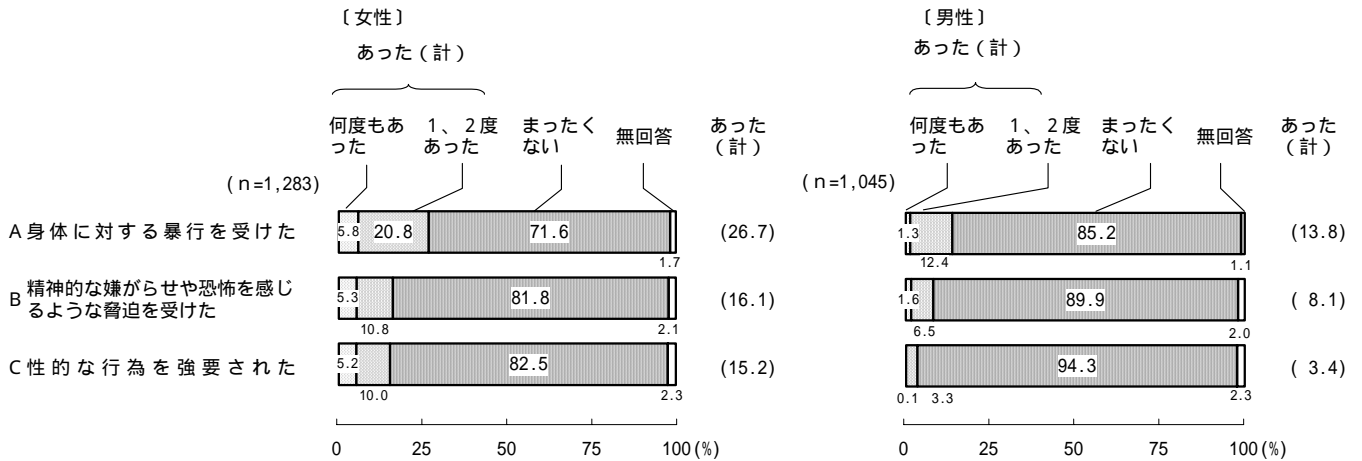


配偶者からの被害経験を男女別にみると(図3-1-2)、“身体に対する暴行を受けた”ことが『あった』人は女性(「何度も」5.8%+「1、2度」20.8%)で26.7%と、男性(同1.3%+12.4%)を13ポイント上回っている。

“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「何度もあった」(女性5.3%、男性1.6%)もしくは「1、2度あった」(同10.8%、6.5%)という人は女性16.1%、男性8.1%で、女性の被害率の方が8ポイント高くなっている。

“性的な行為を強要された”ことが『あった』人は、女性で15.2%(「何度も」5.2%+「1、2度」10.0%)、男性で3.4%(同0.1%+3.3%)となっている。

図3 - 1 - 2 配偶者からの被害経験（男女別）



配偶者からの被害経験を性・年齢別にみると（図3 - 1 - 3）“身体に対する暴行を受けた”ことが『あった』人は、女性の20代（「何度も」8.3% + 「1、2度」21.7%）と50代（同6.3% + 22.6%）で3割前後となっている。一方、男性では40代（同3.1% + 16.2%）から50代（同1.2% + 16.3%）で被害経験のある人が2割弱いる。

“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”経験は、女性の30代から50代で2割弱となっている。

また、“性的な行為を強要された”ことが『あった』人は、女性の50代（同13.8% + 5.7%）でほぼ2割と、他の性・年齢層よりやや多くなっている。

図3 - 1 - 3 配偶者からの被害経験（性・年齢別）

A 身体に対する暴行を受けた

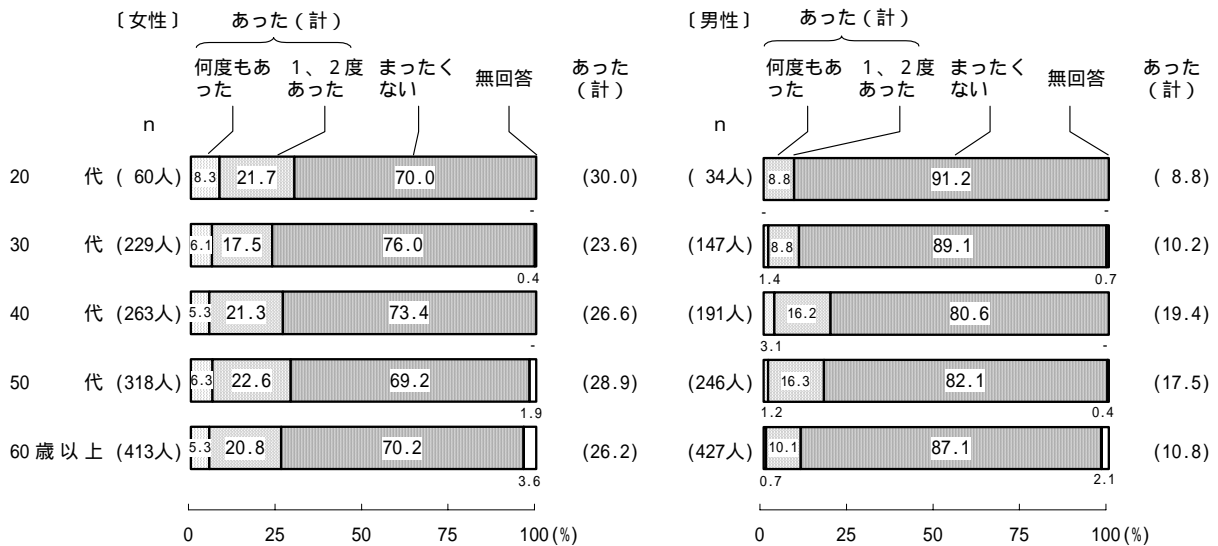
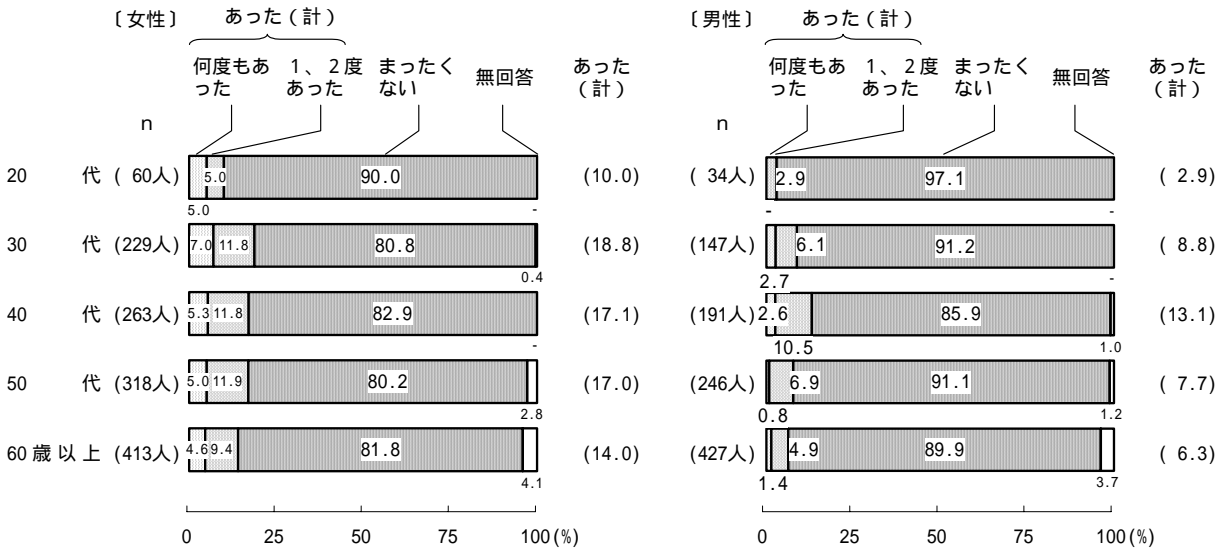
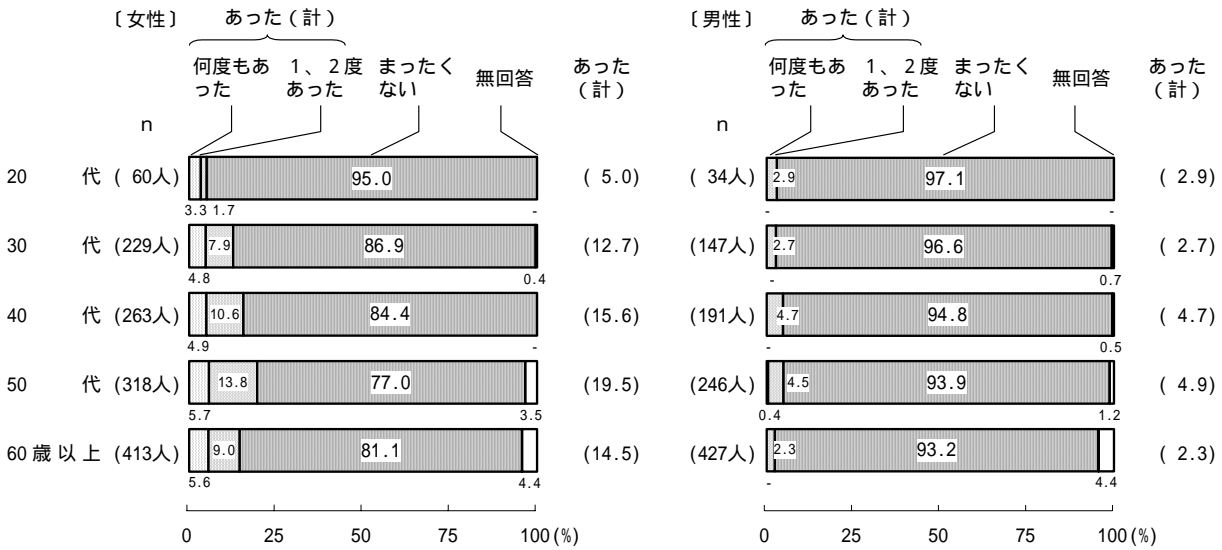


図3 - 1 - 3・つづき

B 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた



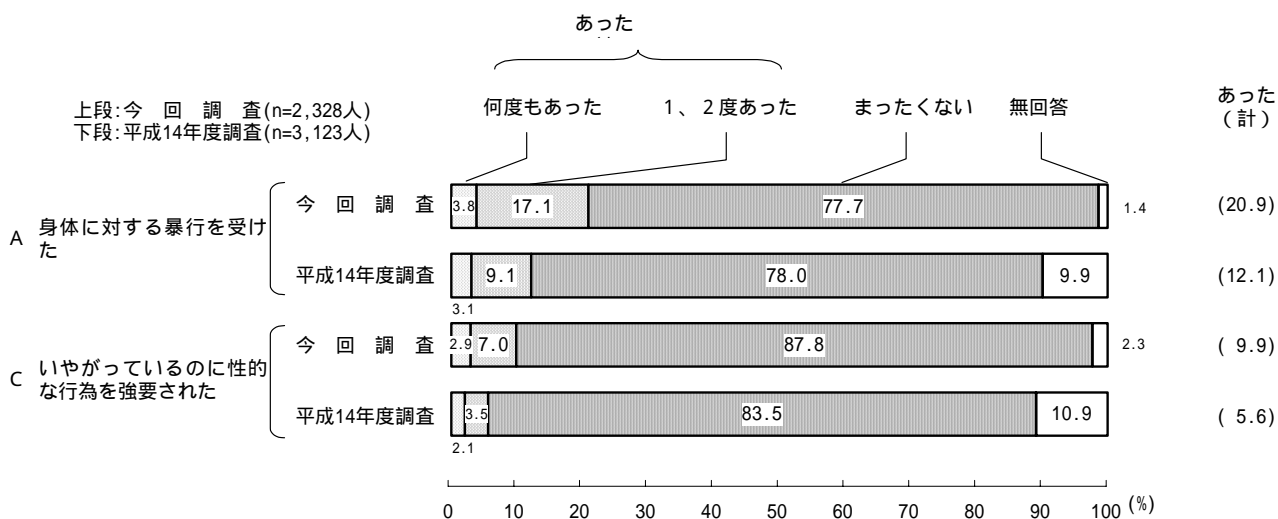
C いやがっているのに性的な行為を強要された



平成 14 年度調査の結果と比較すると(図3 - 1 - 4)、“身体に対する暴行を受けた”ことが「何度もあった」(今回3.8%、平成14年度3.1%)という人はほぼ同率であるが、「1、2度あった」(同17.1%、9.1%)という人は平成14年度調査より8ポイント多くなっている。

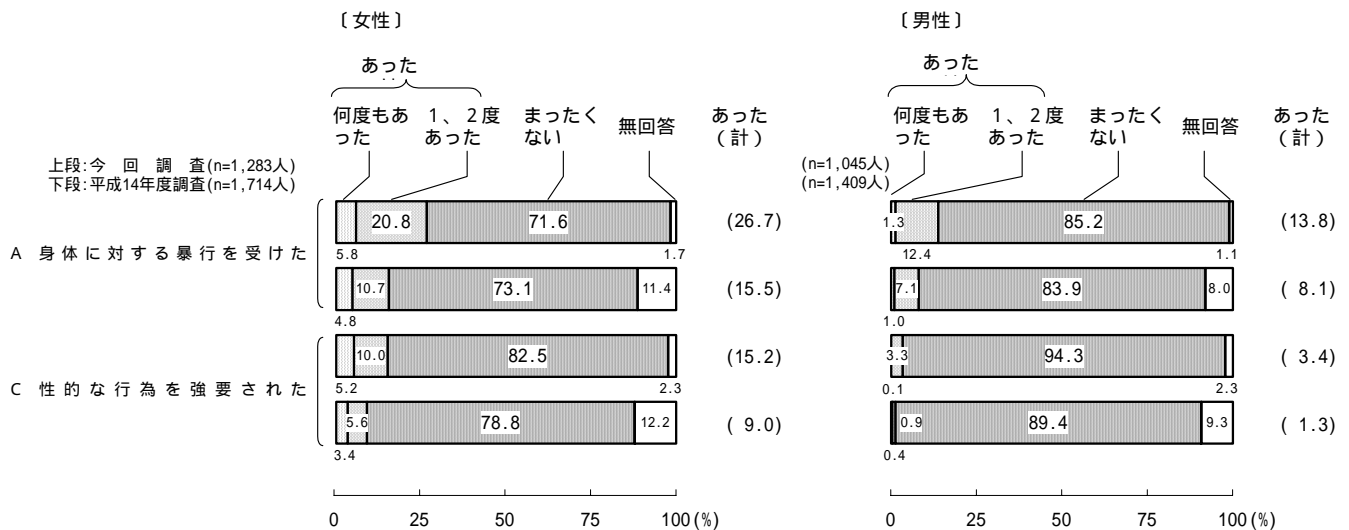
“性的な行為を強要された”ことについては、「何どもあった」(同2.9%、2.1%)もしくは「1、2度あった」(同7.0%、3.5%)という人が、平成14年度調査より4ポイント多くなっている。

図3 - 1 - 4 配偶者からの被害経験 - 時系列比較



男女別に平成 14 年度調査と比較すると（図 3 - 1 - 5）配偶者からの被害経験のある者の割合は女性の方が大きくなっており、“身体に対する暴行を受けた”という人は、10ポイント程度多くなっている。

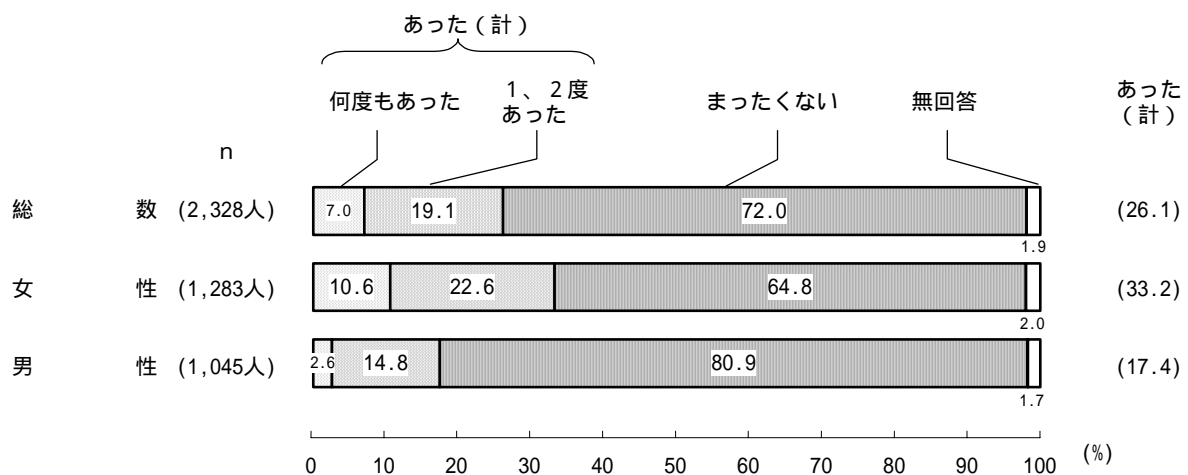
図 3 - 1 - 5 配偶者からの被害経験 - 過去調査との比較（男女別）



配偶者からの被害経験をまとめてみると、“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかについて『何度もあった』という人は 7.0%、『1、2度あった』という人は 19.1%で、1度でも受けたことがある人は 26.1%となっている。（図 3 - 1 - 6）

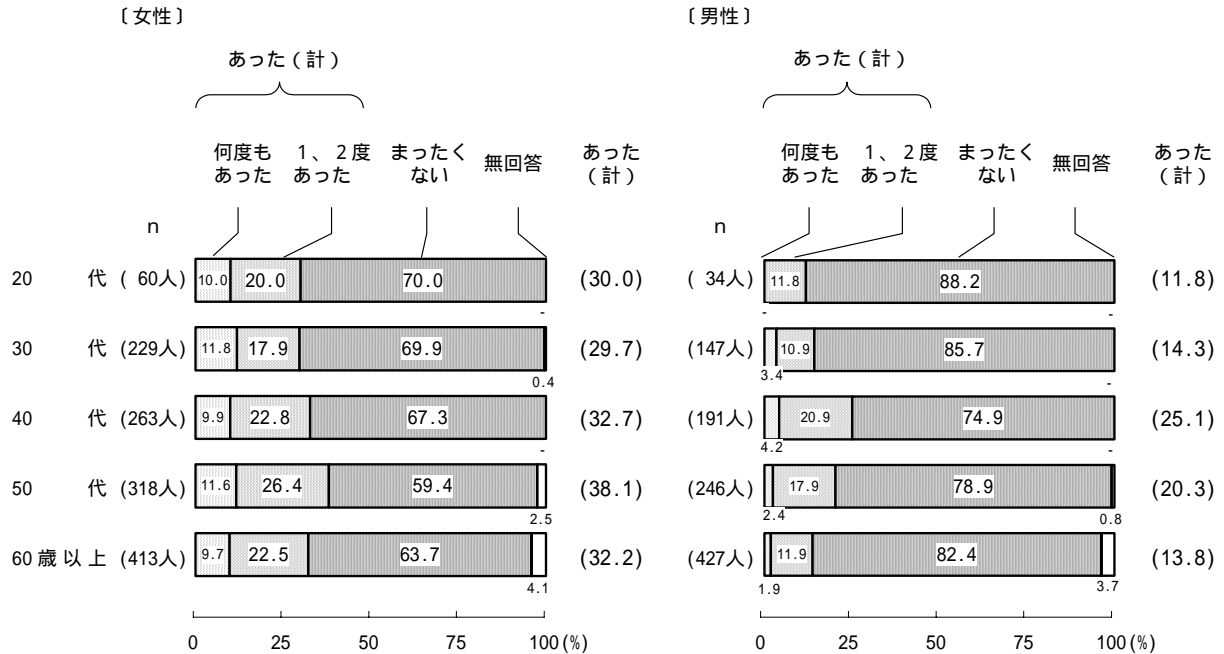
男女別にみると（図 3 - 1 - 6）女性の 1 割は配偶者からの被害を受けたことが『何度もあった』（女性 10.6%、男性 2.6%）と答えており、男性を 8ポイント上回っている。

図 3 - 1 - 6 配偶者からの被害経験 - まとめ



配偶者からの被害経験の有無を性・年齢別にみると(図3-1-7) いずれかの被害を受けた経験のある人は、女性の50代で38.1%と、他の性・年齢層より多くなっている。

図3-1-7 配偶者からの被害経験 - まとめ(性・年齢別)



配偶者から受けた「身体的暴行」「心理的攻撃」「性的強要」といった行為の重複をみると(表3-1-1) 「身体的暴行のみ」(8.8%)である人が1割弱である。

男女別にみると(表3-1-1) 女性では「身体的暴行のみ」(10.3%)という人が1割で、次いで「身体的暴行・心理的攻撃・性的強要」(7.5%)という人が1割弱である。一方、男性でも「身体的暴行のみ」(7.0%)という人が1割弱となっている。

表3-1-1 配偶者からの被害の重複

	n	(%)								
		身体的暴行のみ	心理的攻撃のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的攻撃	心理的攻撃と性的強要	身体的暴行と性的強要	身体的暴行・心理的攻撃・性的強要	まったくない	無回答
【総数】	2,328	8.8	2.2	2.2	4.6	0.6	2.2	4.8	72.0	2.6
女性	1,283	10.3	2.2	3.3	5.1	0.9	3.4	7.5	64.8	2.5
男性	1,045	7.0	2.3	1.0	3.8	0.3	0.7	1.4	80.9	2.7

(2) 過去5年以内の配偶者からの被害経験

配偶者からこれまでに何らかの被害を受けたことがある人(608人)に、さらに過去5年以内にしばって被害状況を聞いた(図3-2-1)。

“なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた”ことが「この1年にあった」人は11.2%で、「この2～5年にあった」(17.4%)という人は2割弱である。

“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた”ことが「この1年にあった」人は10.4%で、「この2～5年にあった」という人は15.3%である。

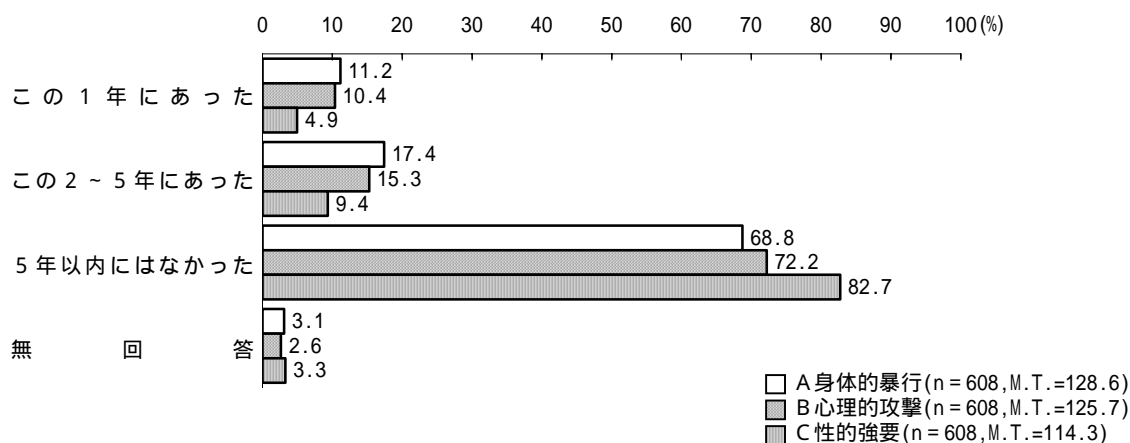
最後に、これまでに“いやがっているのに性的な行為を強要された”ことが「この1年にあった」人は4.9%で、「この2～5年にあった」(9.4%)という人は、ほぼ1割となっている。

【問6～問13は、問5でAからCのうち1つでも、「1 1、2度あった」「2 何度もあった」と回答した方にお聞きします。

AからCのすべてが「3 まったくない」という方は6ページの問14にお進みください。】

問6では、この1年とこの5年には、どうでしたか。AからCのそれぞれについて、あてはまる番号すべてにをつけてください。(はいいくつでも)

図3-2-1 配偶者からの被害経験 - 過去5年間



- A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- C いやがっているのに性的な行為を強要された

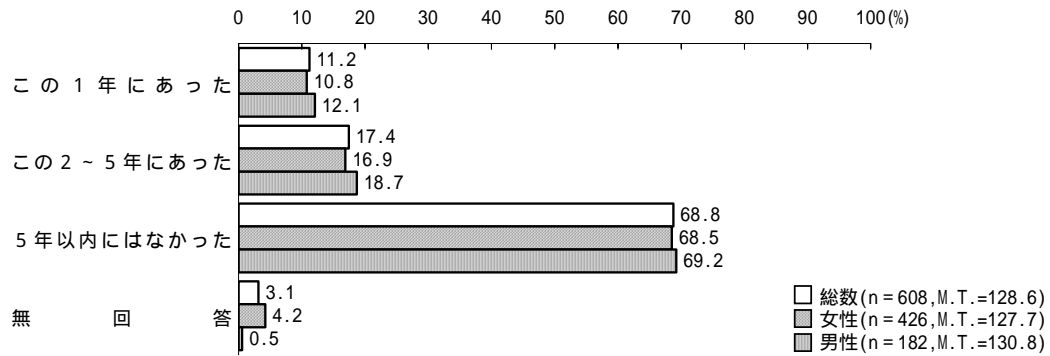
過去5年以内の被害経験を男女別にみると(図3-2-2)“身体に対する暴行を受けた”人に大きな男女差はみられない。

“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”経験は、女性(1年9.6%、2～5年15.0%)より男性(同12.1%、15.9%)の方がやや多くなっている。

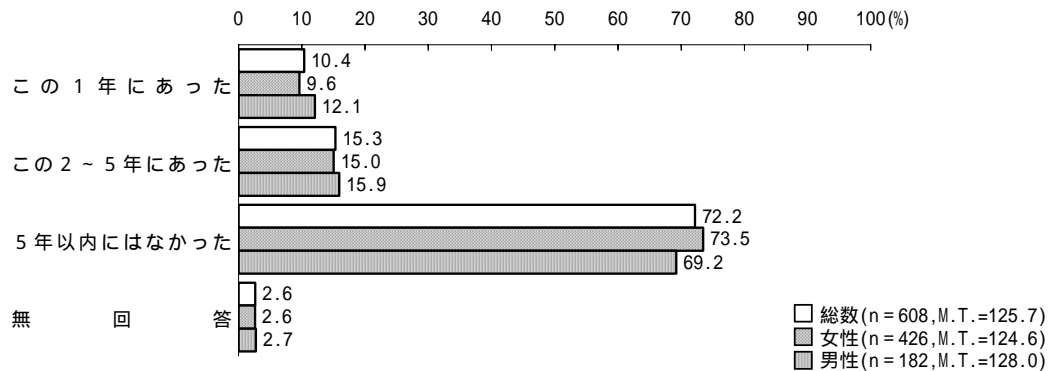
“性的な行為を強要された”経験は、男性（同1.1%、7.1%）より女性（同6.6%、10.3%）の方が9ポイント多くなっている。

図3 - 2 - 2 配偶者からの被害経験 - 過去5年間（男女別）

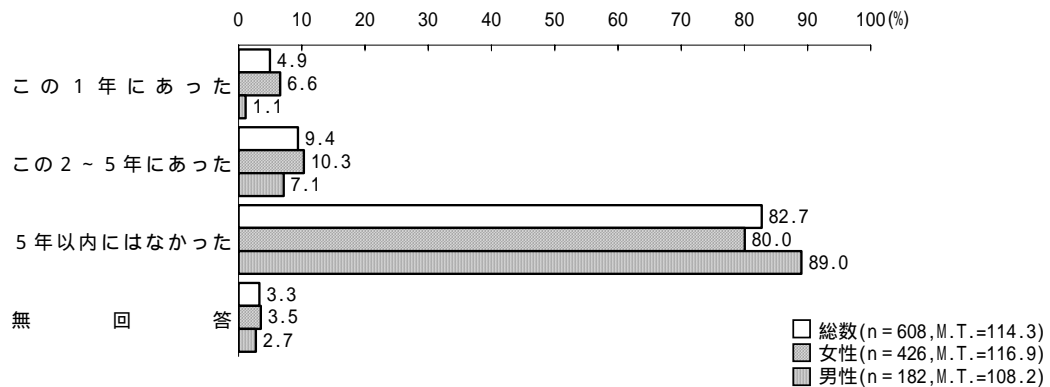
A 身体に対する暴行を受けた



B 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた



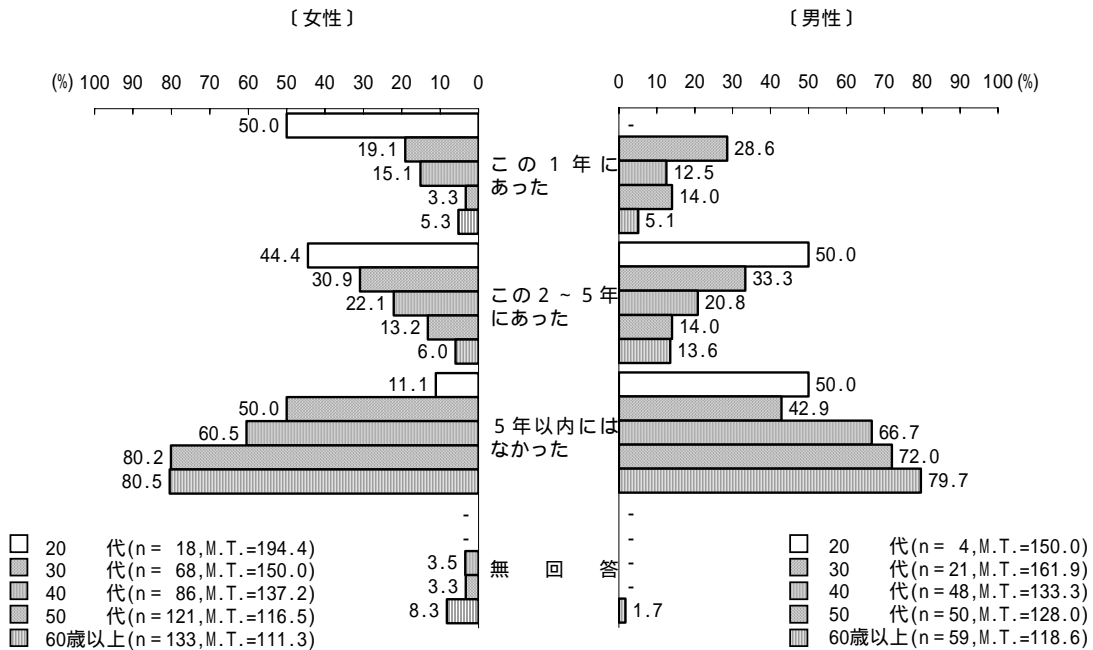
C 性的な行為を強要された



該当数は小さくなるが性・年齢別の傾向をみると（図3 - 2 - 3）この1年もしくは2～5年以内に配偶者からの被害にあっている人は、男女とも年齢の若い層に多くなる傾向がある。

図3 - 2 - 3 配偶者からの被害経験 - 過去5年間（性・年齢別）

A 身体に対する暴行を受けた



B 精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた

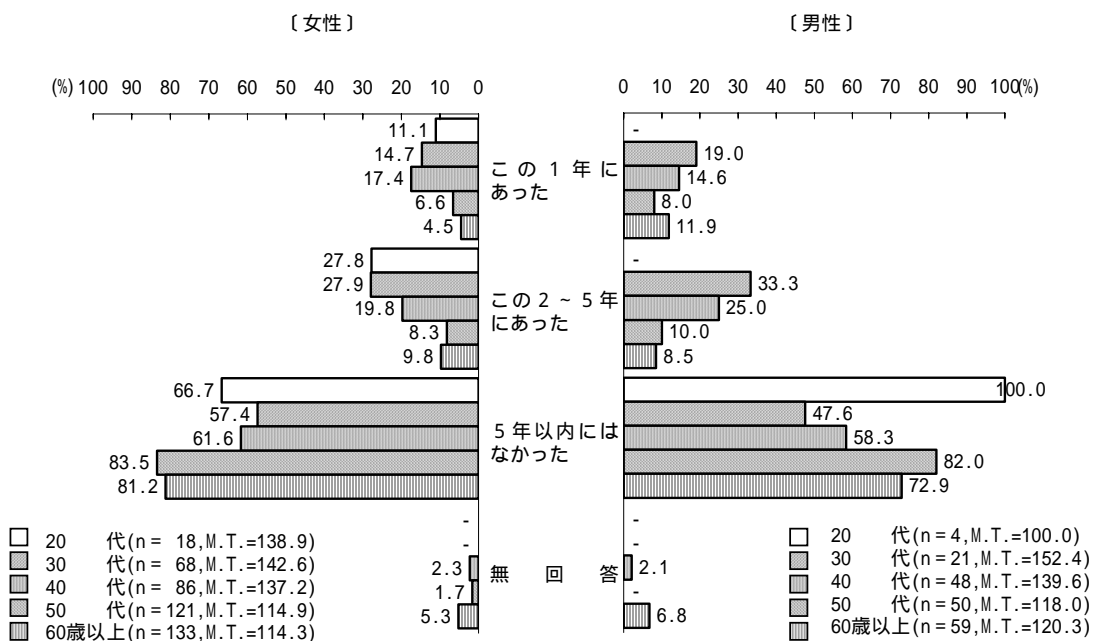
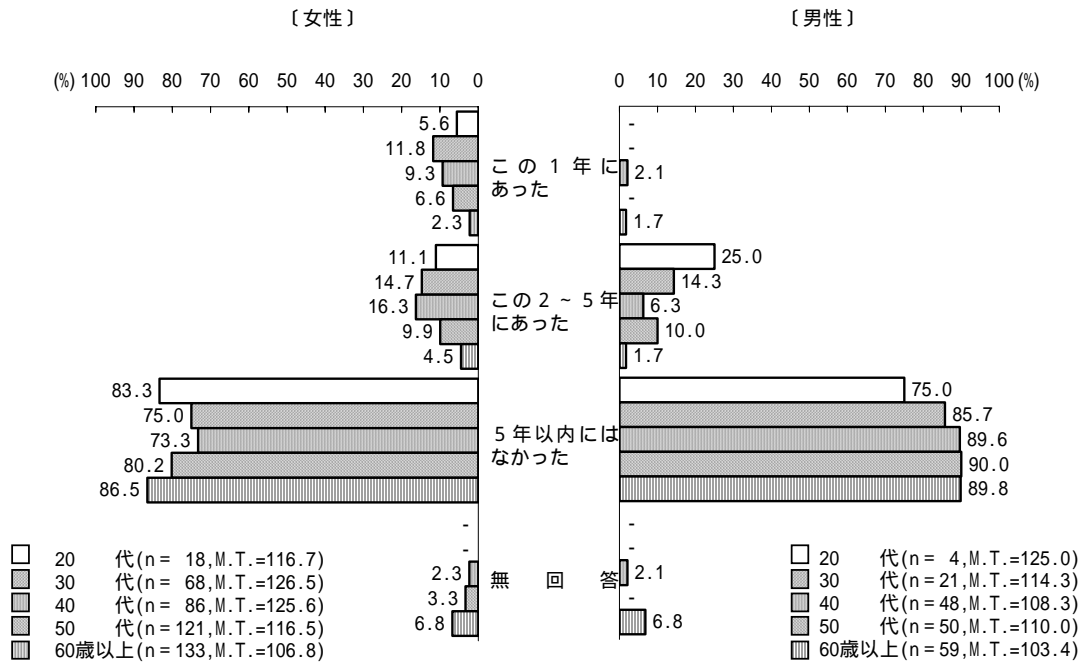


図3 - 2 - 3・つづき

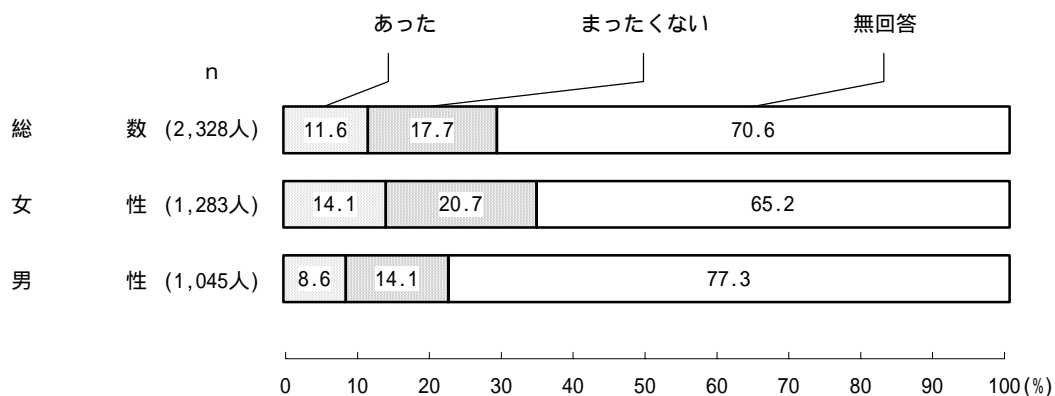
C 性的な行為を強要された



この5年以内に配偶者から何らかの被害を受けた経験の有無を、これまでに結婚したことがある人全体(2,328人)でみると(図3-2-4)被害経験が「あった」という人は11.6%である。

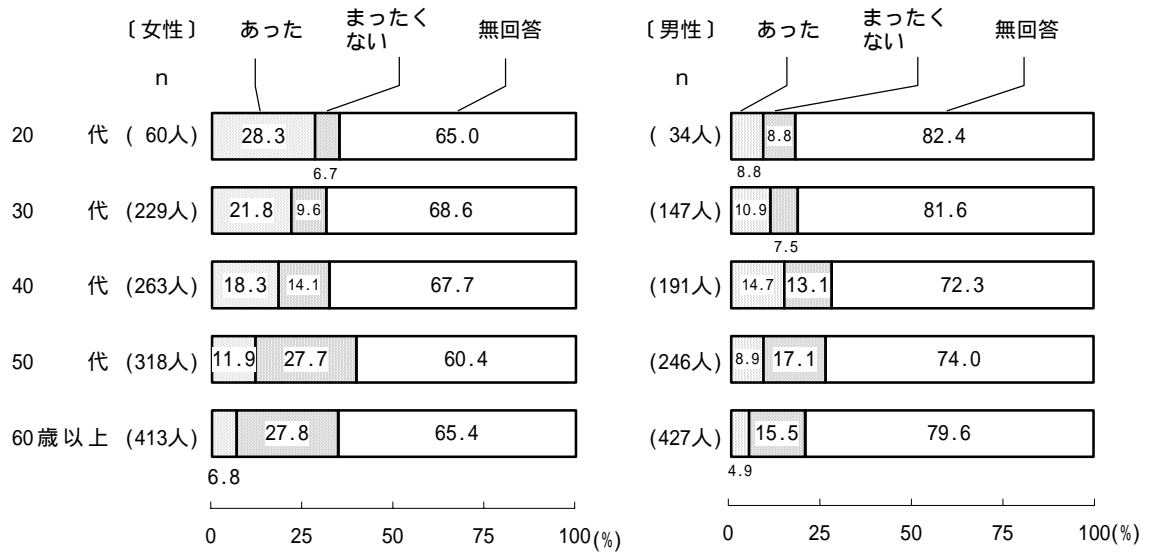
男女別にみると(図3-2-4)女性では全体の14.1%が被害を受けたことが「あった」と答えているのに対して、男性では8.6%と、6ポイントの開きがある。

図3 - 2 - 4 配偶者からの被害経験 - 過去5年間・まとめ(全体ベース)



さらに、性・年齢別にみると（図3 - 2 - 5）、女性では若年齢層ほど、この5年以内に配偶者から被害を受けたことが「あった」という人が多くなっており、20代（28.3%）では3割近くが被害を受けている。

図3 - 2 - 5 配偶者からの被害経験 - 過去5年間・まとめ（全体ベース/性・年齢別）



この5年以内に配偶者から受けた“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”といった行為の重複をみると(表3-2-1)「身体的暴行のみ」(12.2%)である人が1割強である。

男女別にみると(表3-2-1)女性では「身体的暴行のみ」(10.1%)という人が1割で最も多くなっているが、次いで「身体的暴行・心理的攻撃」(8.2%)「身体的暴行・心理的攻撃・性的強要」(6.8%)「心理的攻撃のみ」(6.3%)「性的強要のみ」(6.3%)などがいずれも1割弱で、重複の傾向が分散している。

一方、男性では「身体的暴行のみ」(17.0%)という人が2割弱で、次いで「心理的攻撃のみ」(13.2%)「身体的暴行・心理的攻撃」(10.4%)が1割強で続いている。

表3-2-1 配偶者からの被害の重複 - 過去5年間

	n	身体的暴行のみ	心理的攻撃のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的攻撃	性的強要と心理的攻撃	身体的暴行と性的強要	身体的暴行・心理的攻撃・性的強要	まったくない	無回答
【総数】	608	12.2	8.4	5.6	8.9	1.6	1.3	5.4	51.8	4.8
女性	426	10.1	6.3	6.3	8.2	1.6	1.6	6.8	53.5	5.4
男性	182	17.0	13.2	3.8	10.4	1.6	0.5	2.2	47.8	3.3

(3) 配偶者からの被害の相談先

この5年以内に配偶者から何らかの被害を受けたことがあった人(269人)に、受けた行為についての相談先を聞いたところ(図3-3-1)、「友人・知人に相談した」(23.4%)と「家族や親戚に相談した」(22.3%)がそれぞれ2割強となっているが、それ以外の項目はいずれも1~2%程度である。

「どこ(だれ)にも相談しなかった」(59.5%)という人は、6割を占める。

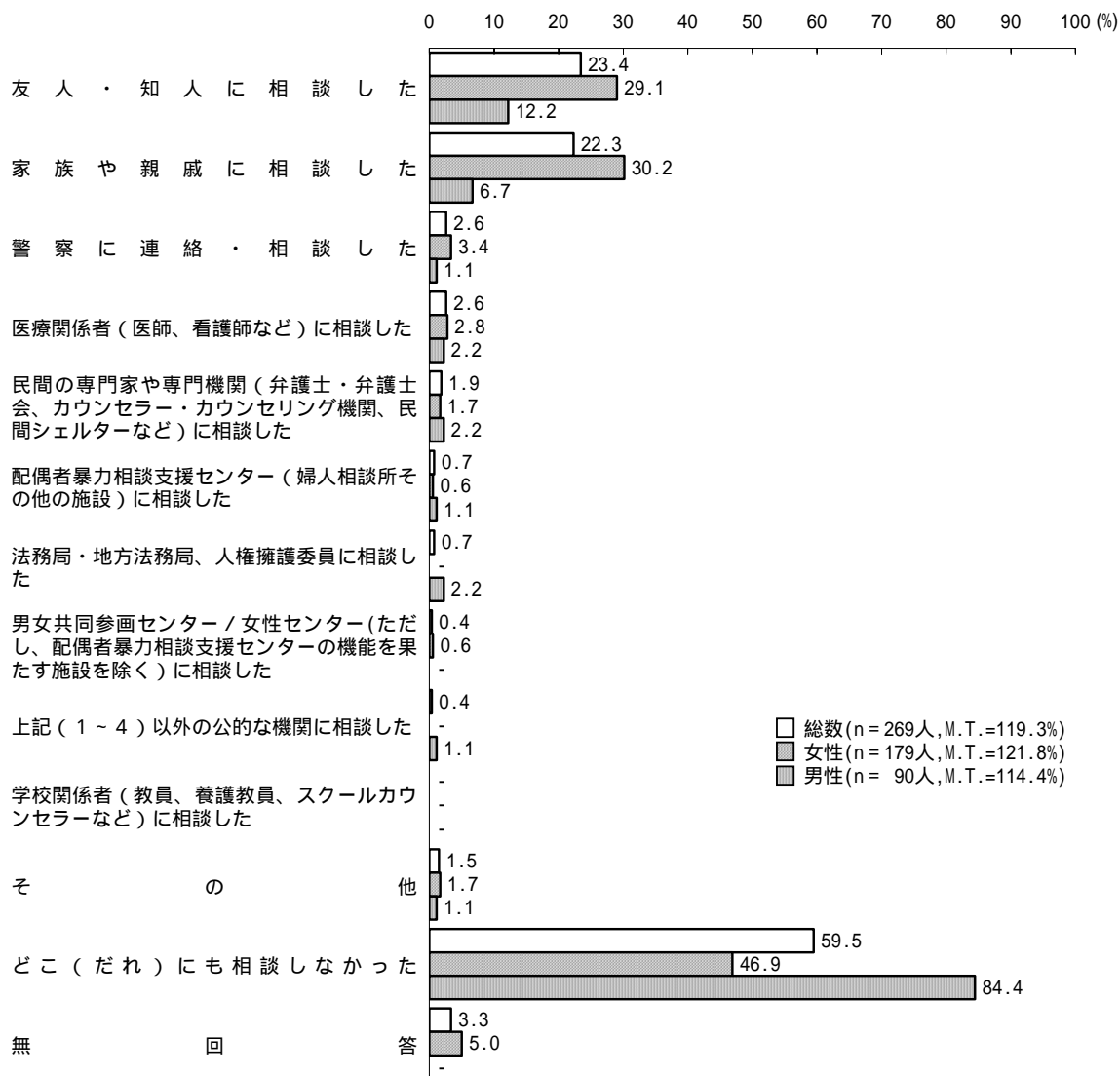
男女別にみると(図3-3-1)、「友人・知人に相談した」(女性29.1%、男性12.2%)と「家族や親戚に相談した」(同30.2%、6.7%)はいずれも女性で約3割となっているが、男性では1割前後となっている。

【問6でAからCのうち1つでも、「1 この1年にあった」「2 この2~5年にあった」と回答した方にお聞きします。

AからCのすべてが、「3 5年以内にはなかった」という方は次ページの問9にお進みください。】

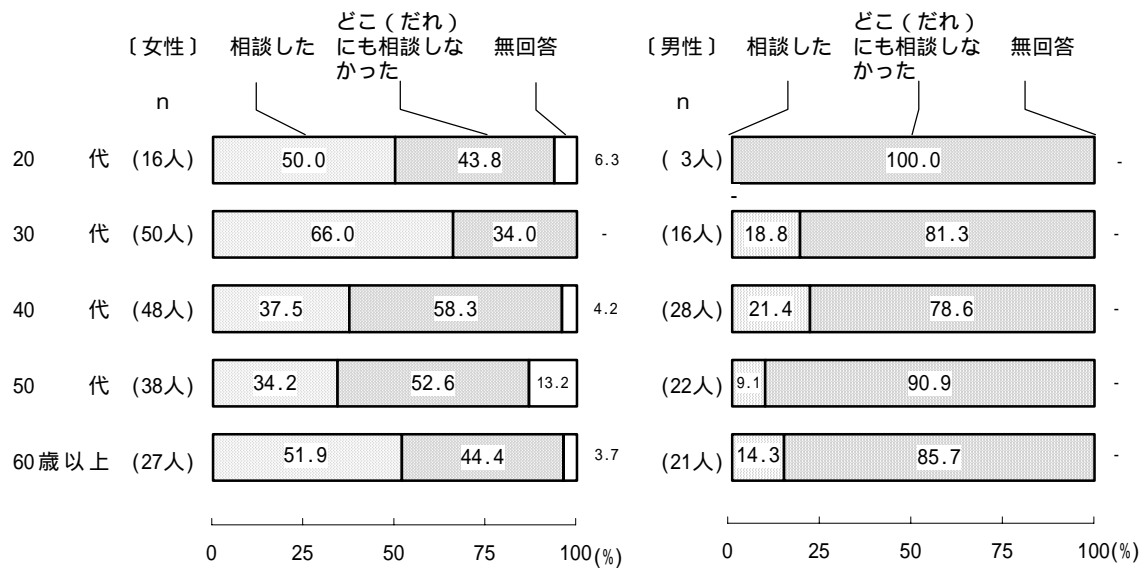
問7 あなたはこの5年の間に、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに をつけてください。(はいいくつでも)

図3-3-1 配偶者からの被害の相談先



該当数は小さくなるが、相談の有無を性・年齢別にみると（図3 - 3 - 2）『だれかに相談した』という人は、女性の30代（66.0%）で3人に2人と、他の年齢層より多くなっている。

図3 - 3 - 2 相談の有無（性・年齢別）



(4) 相談しなかった理由

配偶者からの被害について、どこ(だれ)にも相談しなかった人(160人)が、相談しない理由としては(図3-4-1)「相談するほどのことではないと思ったから」が56.9%で最も多くあげられ、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(41.9%)が4割強となっている。

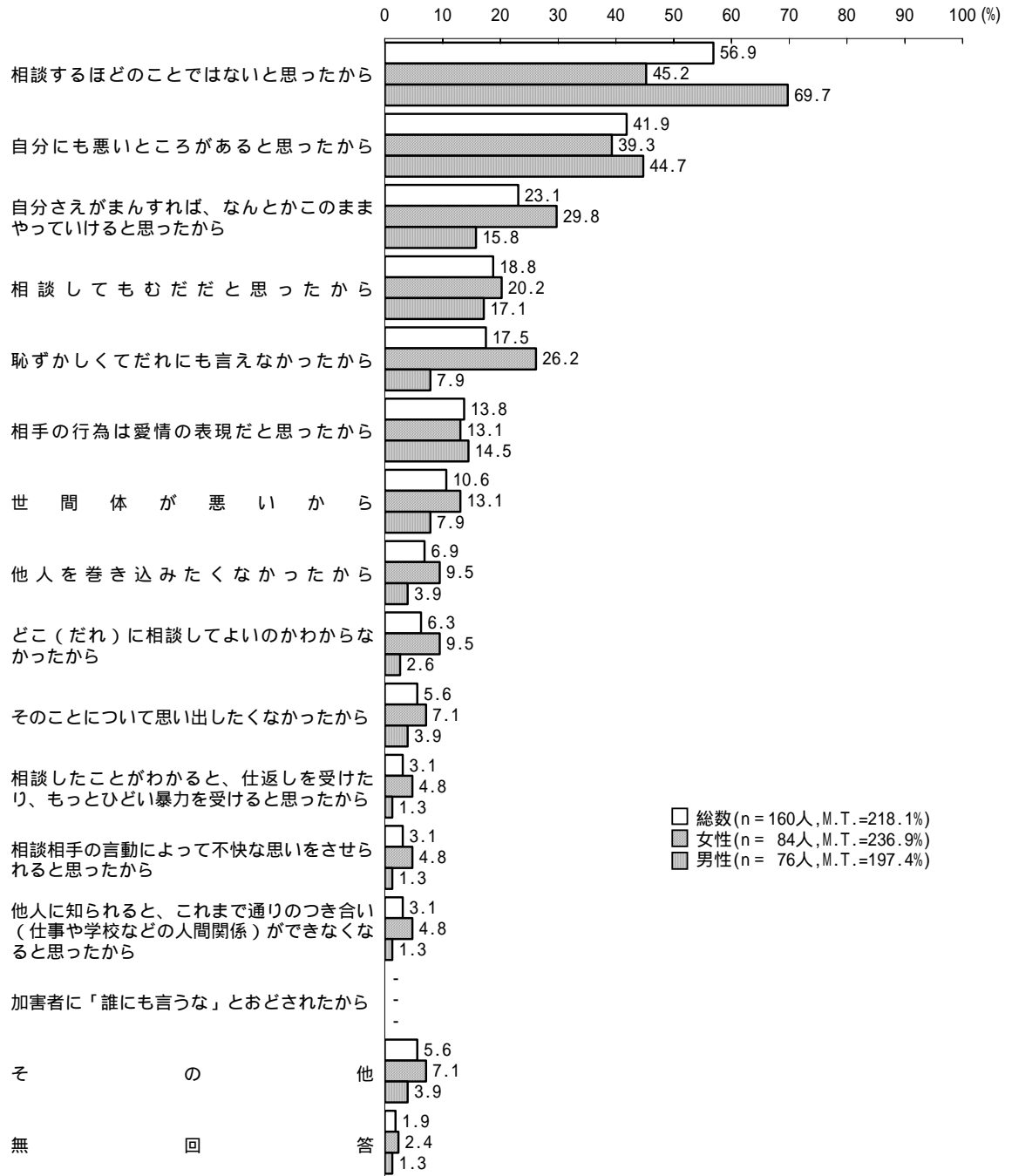
男女別にみると(図3-4-1)「相談するほどのことではないと思ったから」(女性45.2%、男性69.7%)は、男性で7割があげており、女性を25ポイント上回っている。また、「自分にも悪いところがあると思ったから」(同39.3%、44.7%)も女性より男性に5ポイント多くあげられている。

一方、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(同29.8%、15.8%)と「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(同26.2%、7.9%)は、女性ではほぼ3割があげており、男性を14~18ポイント上回っている。

【問7で「12 どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問8 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに をつけてください。(はいくつでも)

図3-4-1 相談しなかった理由



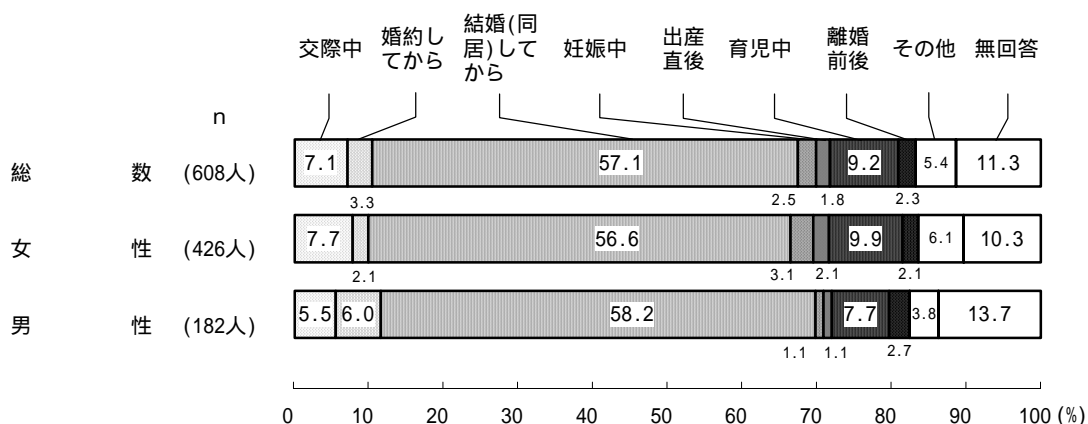
(5) 最初に被害を受けた時期

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人(608人)に、その行為を初めて受けた時期を聞いたところ(図3-5-1)「結婚(同居)してから」という人が57.1%で最も多く、以下「育児中」(9.2%)、「交際中」(7.1%)などが1割弱である。

男女別にみて(図3-5-1)大きな差はみられない。

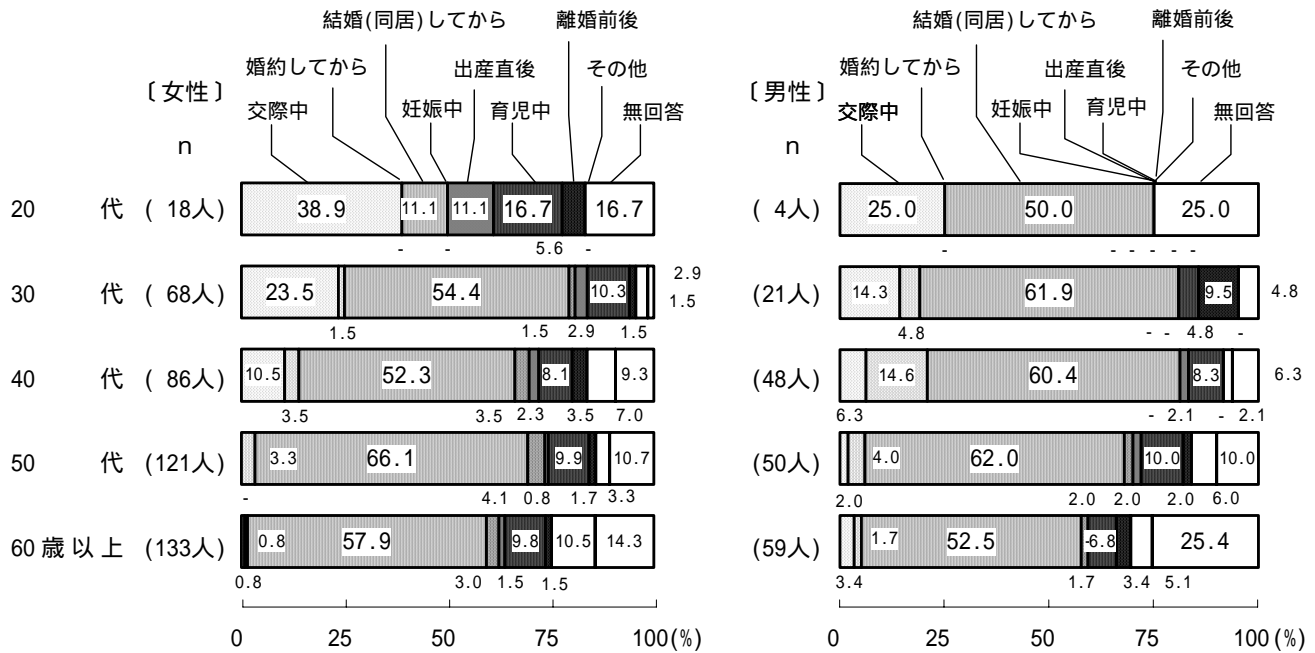
【配偶者から、問5のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
 問9 あなたが、あなたの配偶者からそのような行為を最初に受けたのは、いつですか。あてはまる番号1つに をつけてください。(は1つ)

図3-5-1 最初に被害を受けた時期



最初に被害を受けた時期を性・年齢別にみると（図3 - 5 - 2）、女性の50代では「結婚（同居）してから」（66.1%）という人が7割近くを占める。また、女性の30代では「交際中」（23.5%）に初めて被害を受けたという人が2割強である。

図3 - 5 - 2 最初に被害を受けた時期（性・年齢別）



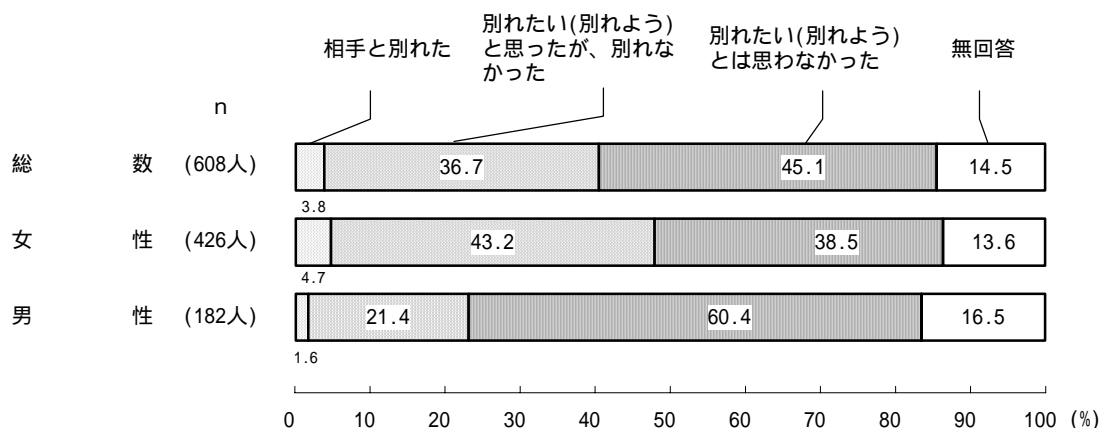
(6) 配偶者から被害を受けた後の関係

これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人(608人)に、その行為を初めて受けたころ、相手との関係をどうしたのかを聞いたところ(図3-6-1)「別れたい(別れよう)とは思わなかった」という人が45.1%で最も多く、次いで「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」(36.7%)という人が4割弱となっている。「相手と別れた」人は、3.8%である。

男女別にみると(図3-6-1)「別れたいと思ったが、別れなかった」(女性43.2%、男性21.4%)という人は男性より女性に、「別れたいとは思わなかった」(同38.5%、60.4%)という人は女性より男性にそれぞれ多くなっている。

問10 あなたは、あなたの配偶者からそのような行為を最初に受けたころ、どうしましたか。あてはまる番号1つに をつけてください。(は1つ)

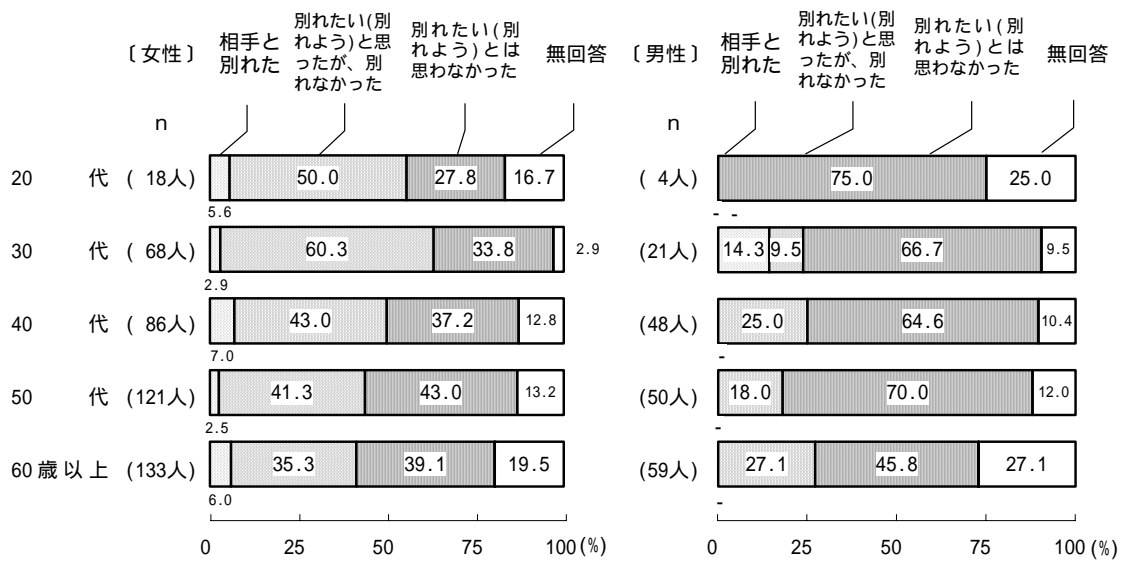
図3-6-1 配偶者から被害を受けた後の関係



初めて配偶者から被害を受けた後の関係を性・年齢別にみると（図3 - 6 - 2）、女性では若年齢層ほど「別れたいと思ったが、別れなかった」という人が多くなる傾向があり、女性の30代（60.3%）では6割を占める。

一方、該当数は少ないが男性では、いずれの年齢層でも「別れたいとは思わなかった」という人が多数を占めている。

図3 - 6 - 2 配偶者から被害を受けた後の関係（性・年齢別）



(7) 別れなかった理由

配偶者から何らかの被害を初めて受けたころ、相手と「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」人(223人)に別れなかった理由を聞いたところ(図3-7-1)、「経済的な不安があったから」という人が24.2%で最も多く、次いで「これ以上は繰り返されたいと思ったから」(16.1%)、「世間体を気にしたから」(11.7%)、「相手は自分が必要だと思ったから」(7.2%)の順となっている。

なお、「その他」(47人)の理由としては(表3-7-1)「子どもがいたから」という人が47人中28人を占めており、別れなかった人全体でみても1割以上となっている。

男女別にみると(図3-7-1)女性では「経済的な不安があったから」(27.7%)が3割弱で最も多くなっているのに対して、該当数は50人に満たないが男性では、「世間体を気にしたから」という人が39人中9人と最も多くなっている。

【問10で「2 別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答した方にお聞きします。】
 問11 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。あてはまる番号1つにをつけてください。(は1つ)

図3-7-1 別れなかった理由

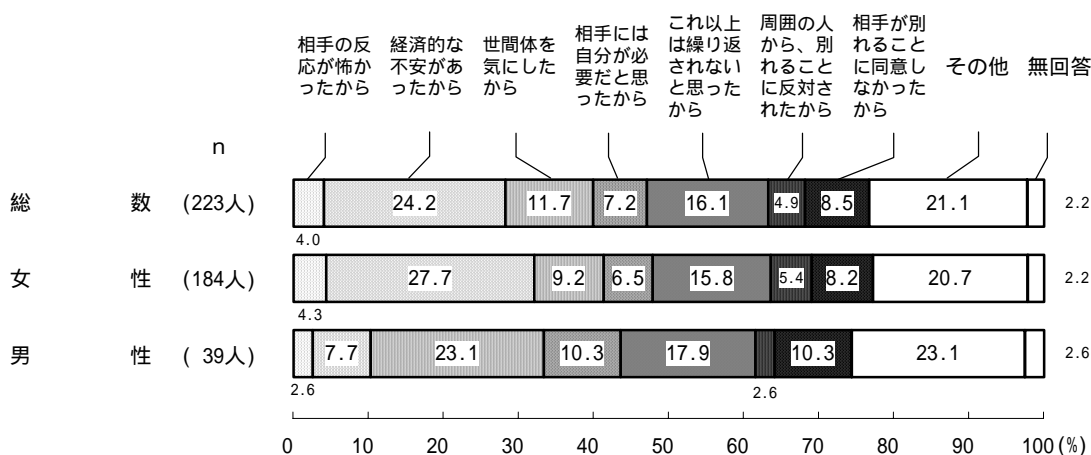


図3-7-1 別れなかった理由 「その他」の内訳

n	子どもがいたから	相手のことが好きだった	自分で選んだ相手だったから	反省して仲直りしたから	すぐに忘れたから	そのうちわかってくれると思ったから	ただのケンカだったから	ノイローゼになり入院・手術した	結婚したら、多少のことではいけなそうと思った	時には優しいときもある	自分に相手が必要だった	自分も悪かった	相手の経済生活が心配だった	相手が新興宗教に凝っていた	NA
47	28	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	

(8) 子どもによる目撃

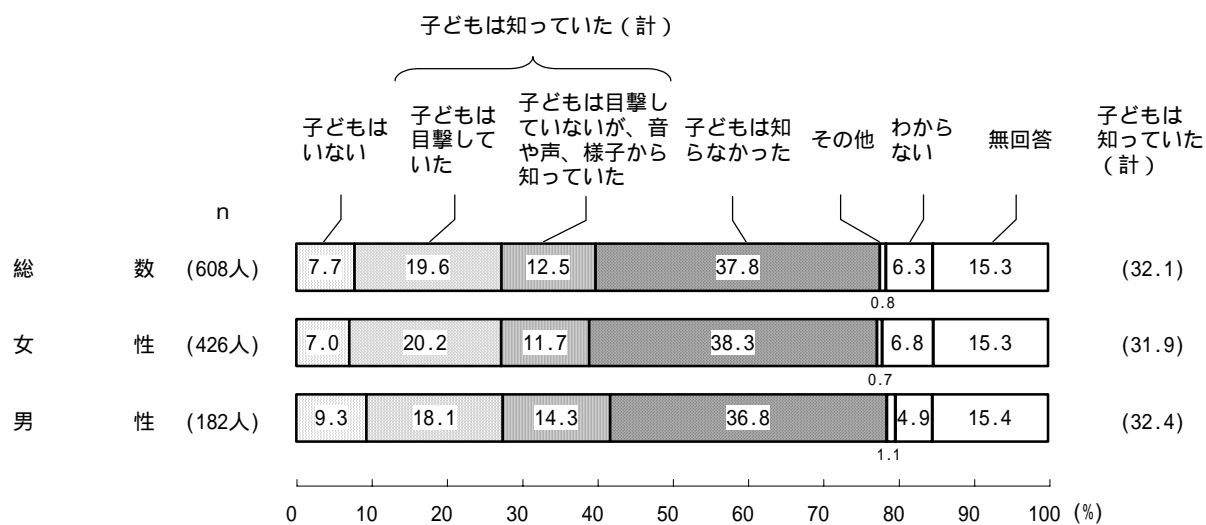
これまでに配偶者から何らかの被害を受けたことのある人(608人)に、そのような行為を受けていることを子どもが18歳未満の時期に知っていたかどうかについて聞いたところ(図3-8-1)、「子どもは知らなかった」(37.8%)という人が4割弱で最も多い。

「子どもは目撃していた」(19.6%)という人は2割で、「子どもは目撃していないが、音や声、様子から知っていた」(12.5%)という人を合わせると、ほぼ3人に1人は、配偶者からの行為を『子どもは知っていた』と答えている。

男女別にみても(図3-8-1)大きな差はみられない。

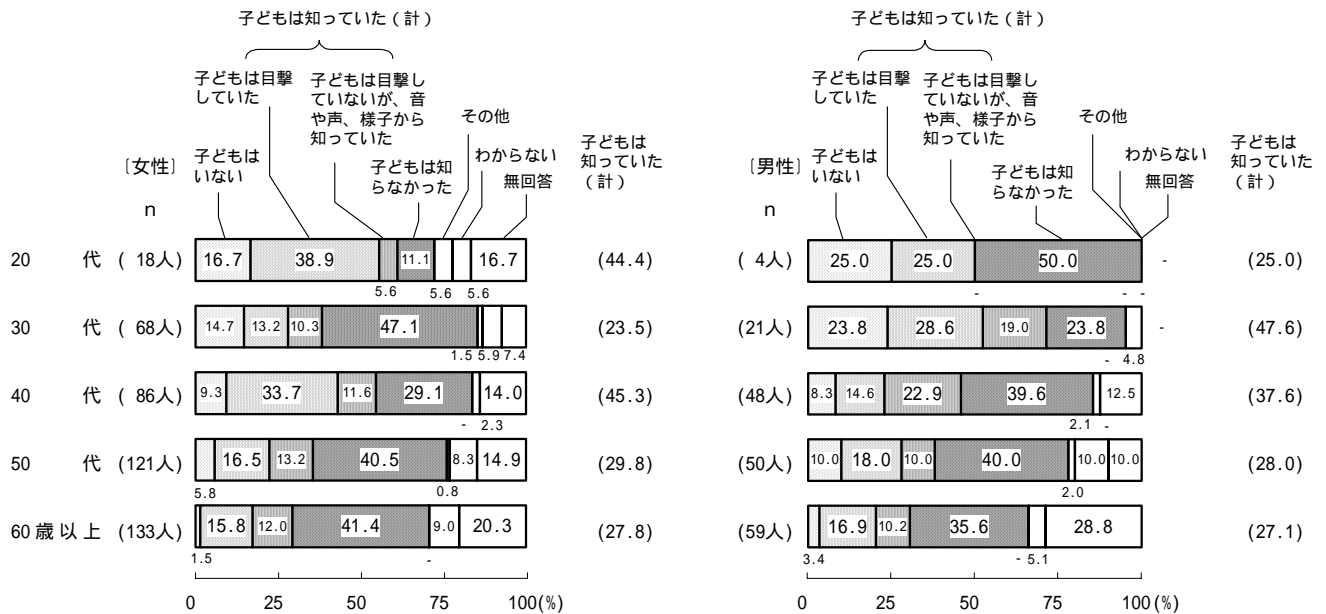
【配偶者から、問5のAからCの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
 問12 あなたにはお子さんがいますか。いる場合、あなたのお子さんは、あなたが配偶者からそのような行為を受けたことを知っていましたか。あてはまる番号1つにをつけてください。
 あなたのお子さんが18歳未満の場合は現在について、すでにお子さんが18歳以上の場合は18歳になるまでの頃についてお答えください。(は1つ)

図3-8-1 子どもによる目撃



子どもによる目撃の状況を性・年齢別にみると(図3-8-2) 女性の40代で「子どもは目撃していた」(33.7%)という人が3割を超えて他の性・年齢層より多くなっている。また、女性の30代で、「子どもは知らなかった」(47.1%)という人が半数近い。

図3-8-2 子どもによる目撃(性・年齢別)



(9) 子どもへの影響

配偶者から何らかの被害を受けていたことを子どもが18歳未満の時期に『知っていた』という人(195人)に、その影響を聞いたところ(図3-9-1)、子どもの心身に「影響を与えたと思う」(67.2%)という人が7割近くを占める。

これに対して、「影響は与えなかったと思う」(13.3%)という人は1割強である。

【問12で「2」～「3」と答えた方にお聞きします。】

問13 あなたは、このことがお子さんの心身に影響を与えたと思いますか。あてはまる番号1つをつけてください。(は1つ)

図3-9-1 子どもへの影響

